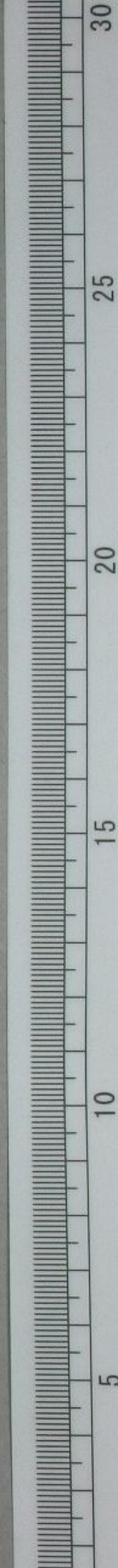




茶味論

113
923



茶味論

413

923

門 413
923

茶味論

夏ノ夜炎熱ニ堪カ子終夜ト口ニ兼偶然トシテ居ケルニ

飛螢光リヲ放テ白日ノ如クナリシ折カラ予思フニ世上ニ茶

豆ヲ好ミ驕ル人多シト聞テ愚考ヲ述ルニ熟ク萬物ヲ数ヘ見ルニ

茶豆ニ三眼アリト云テ先茶室ノ物数寄ト道具ノ物数寄ト料理ノ

物数寄トノ三ツニテ種々ノ奢ヲ致スナリ惟ルニ今豆腐百珍トイフ

豆ヲ思ヒ付ニ付聊茶豆ノ本意ハコト思ヒケル故筆ヲ執リ戯ニ

誌ル也予モ此道ヲ閑暇ノ刻聊樂メル儘諺ニ云ヘル上好ム者アレ

ハ下是ヨリ甚シキ者アリト云テ顧念シテ人々アタマタン程ヲモ恐テ

書綴リシニ

茶道盛ニナリシモ往古ハシモ知ラス先 東山義政將軍権柄ヲトリ



大正十五年二月
花房仙次郎氏印

威ヲ逞シ諸侯ヲ靡シテ獨權威ヲ振ヒ茶更ニ心ヲ寄ケルガ種々ト
物好ヲナレテ當今ニ至ル迄其名高ク人口ニ繪矣スル所ニテ俗ニ東山
好ナソト云テモテハヤレケル品多シサレバ當世ノ物好ニ比スレハ遙ニ質素
ニテ有ケルガ今ノ茶ヲ好ム者ハ庶人ニテモ東山殿ノ好ミヨリハ十段モ上
ビタル品好ム人多キ故茶更ハ奢リノ事ト人々是ヲ以テ云習ハシケル予
茶更ノ深キ心ヲシラテ斯ク云ハ如何ナレ元來茶更ハ和敬清寂ト云
テ和ハ人ト和睦スル意ニテ睦ク何更モ和スル更ニテ古語ニモ不如人和
ト云ル通り也敬ハウヤマフト訓シテ長者ヲ敬シ尊フ意ニテ論語ニモ君子敬
而無失典入恭而有禮四海之内皆兄弟也ト云又君使臣以禮事君以忠
トモ云テ君臣義ヲ以テ合フ者也清ト云ハ清淨ノ意ニテ汚レヌルナク心モ幹キ
上ゲタル如ク萬清潔ニスルヲ云寂ハ寂寥トト云テ如何モ物靜ニシテ心氣ヲ丹

田ニ納メ少シモ騷シキ心ナク悠然トシテ冬風枯ノ梢ヲ渡ル音ノミ聞ユル
位ノ心持ニテ浮世ノ更ハ一事モ耳ニ不觸ト云所ヲ云儲上ニ云ル茶更ヲスルヲ
驕リ者ト云モ皆人々ノ致方ニヨルニ和敬清寂ヲ元トシテナサンニ世ノ人奢者
ト云者有間數侯古語ニモ物薄而情厚ト云處ヲ克々味ヒテナク時ニ彼菜根
ヲ嗤エバ百更ナスニト云所ニ至ルニ右茶更ヲノミ驕ト云(トサラハ斯ル人ハ定テ
質素ナルカト云ニ通情多品ナラザレバ吝嗇ト云ナシテ人ニ疏ミハツル故心ニ
慊シトハ思ハ子ト自然ト俗ニ云朱ニ交レバ赤クナルト云如ク思ハズ知ラズト驕者
ニナルニ先ニシハ賓客ヲ招キ饗應ニ鉢盛ナゾト云數品堆ク盛リテ出スル必
不殘食ル者ニアラス又其他吸羹ヲ始メ數多アレ推テ考フ(シ又茶更ニテ
云シハ吸羹ハ一椀ヲ限リ椀物モ同様八寸燒物モ賓客ノ數ヲ以テ足レトスレ
ハ世俗ノ酒宴トハ遙ニ質素也去ナガラ人々ノ心得方ニヨリテ質トナリ侈トモナル

ナル之如何トナレバ極寒ニ茄子ヲ思ヒ又ハ他國ノ珍品ヲ人ヲ以テ求シニハ
 其財ヲ費ス一ハカラレズ又道具ニテ去シニハ玉杯又象箸ヲ用ヒテ驕
 者ト云ヘシ孟ハ木箸箸ハ枚ヲ用レハ濟也サレド心得違ヒテ水指ハ古
 瀬戸ノ類茶ヒハ作物茶碗ノ類モ右ニ均クスレバ許多ノ金銀ヲ費ス故
 驕者ト云モ宜也予今調理ハ豆腐ニテ種々調和ヒ一品ニテモ茶事ハ
 不ム者ト心付テ其製方ヲ上ルニ六十有餘ノ仕方アリ其製法如左猶心
 ラ盡シテハ餘多製方モアラシカ

- 一 奴豆腐
- 二 燒豆腐
- 三 芭豆腐
- 四 揚豆腐
- 五 縮越豆腐
- 六 胡麻豆腐
- 七 胡桃豆腐
- 八 鶏卵豆腐
- 九 凍豆腐
- 十 石豆腐 紙ニ包テ煮付ル
- 十一 唐豆腐
- 十二 田樂

- 十三 アシ掛豆腐
- 十四 葛ツリ
- 十五 味噌掛豆腐
- 十四 温飽豆腐
- 十七 煮豆
- 十八 賽白
- 十九 乱切豆腐
- 廿 淡雪
- 廿一 祇園
- 廿二 粗天羅
- 廿三 キセイ
- 廿四 干藻
- 廿五 飛龍頭
- 廿六 白和
- 廿七 摺揚
- 廿八 寄豆腐
- 廿九 玉
- 卅 玉燒
- 卅一 澤煮
- 卅二 八杯
- 卅三 雪花菜
- 卅四 コクセウ
- 卅五 生揚
- 卅六 ハンペン
- 卅七 粒燒
- 卅八 雉子煮
- 卅九 蒲燒
- 四十 摺
- 卅一 茶碗蒸
- 卅二 附燒凍
- 卅三 卸凍
- 卅四 豆腐餃
- 卅五 雪花菜餃

卅六 昆布菜

卅七 鯛

卅八 鷄卵餅

卅九 摺豆腐

五十 ケシキヤシ

五十一 ソボロ

五十二 雪花菜汁

五十三 樞揚

五十四 附焼油揚

五十五 稻荷餅

五十六 揚豆腐飯

五十七 柏皮田楽

五十八 ウカムセ

五十九 塩煮

六十 鶯菜

六十一 ゴモク油揚

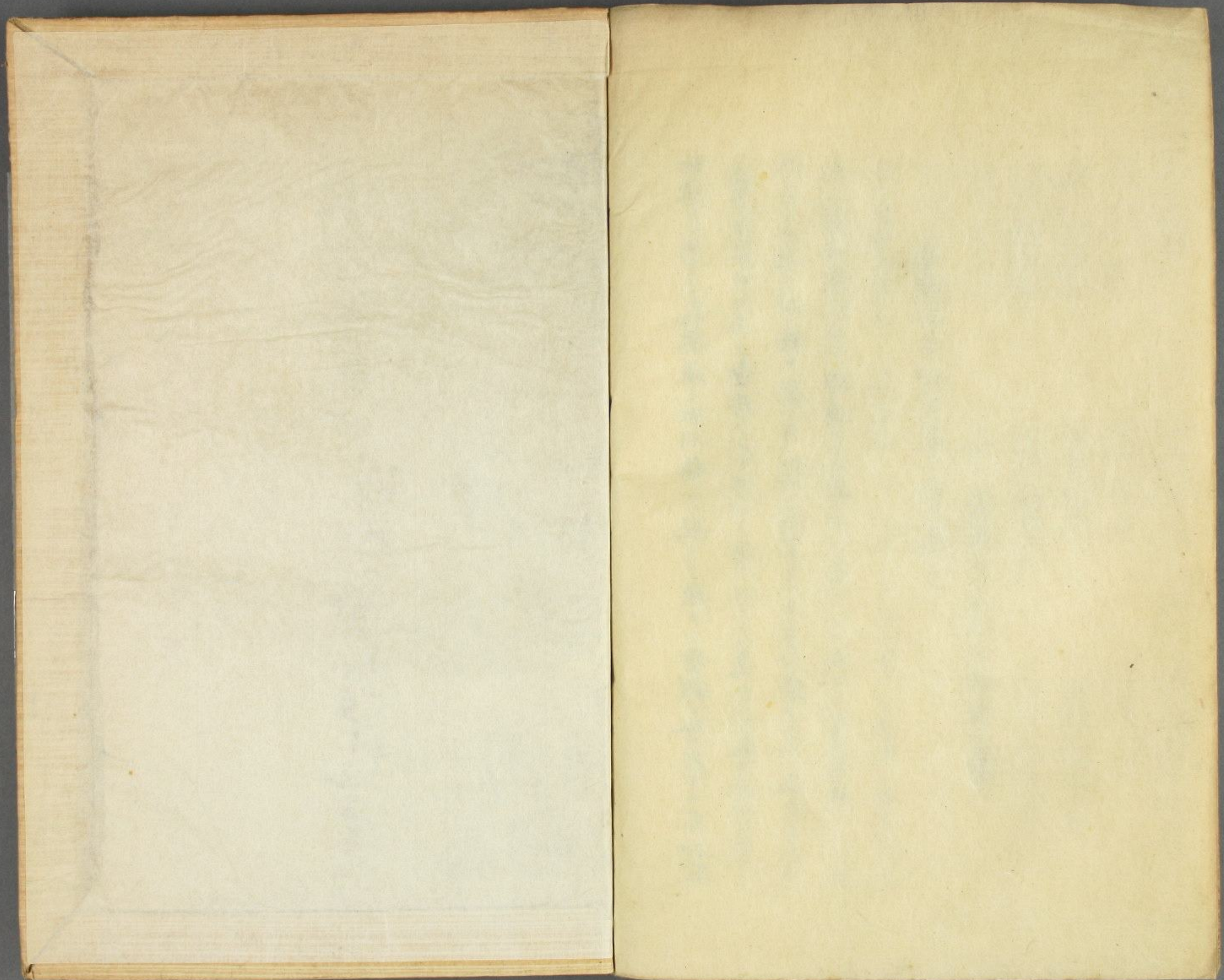
六十二 豆腐シシトヨ

右ノ通製方用方サキアル故豆腐ノミニテモ祿ムモノノ異國ニテモ前漢ノ淮南王六豆
 腐ヲ製シ始メシカ又好ミレシ故カ豆腐ノ変ラ淮南物ト稱ノ淡薄ナル處ヲ以テ雅
 人是ヲ賞翫ス既ニ其ガ文約ニモ羹ヲ淮南王木魚依之ト云タリサレバ上ニモ云ル
 和敬清寂ノ意ヲ大綱トシテサハ驕ニハ成ルカラス左モナキ時ハ茶隻モ害ト
 ナル又爰ニツノ愚説アリ燈火モ油キリニテハ光ヲササズ燈心ヲ以テ油ニ浸シ

和睦ニハ用ヲナスル茶道モ亦同様ニテ親ミヲ厚クシ貴賤ノ分有ラレバ和敬
 ノ意ヲ不失共ニ善ヲ責惡ヲダニ懲シテ信ヲ以テセバ是亦心氣ヲオサムルノ一
 助トモナランガシ茶道ヲ樂シ者如何思フナレバ云ハ子バ腹ヲフル、故カシカイツ
 ノルニ嗚呼黄乳子ノ持遊ヒニモ備ヘバ大幸トモ云ヘケシヤト云

慶應三年初夏筆ヲ執テ認ム

東備從三位源茂政朝臣誌



早稲田大学図書館

011888006860